

市民提案書（案）

～ これからの行田市のまちづくり ～

平成 24 年 3 月

行田市都市計画マスタープラン

市民まちづくり会議

修正意見等は、3月5日（月）の正午までに、まちづくり推進課までお願いします。

メール： machi@city.gyoda.lg.jp

FAX： 553 - 4544

はじめに

私たちは、新たな都市計画の基本的な方針となる都市計画マスタープランの策定にあたり、日々生活を営んでいる市民の意見・提案を取り入れた計画づくりを進めることを目的とした、行田市都市計画マスタープラン市民まちづくり会議に参加しました。

市民まちづくり会議は、一般公募により 32 名の市民が集まり、平成 23 年 11 月から平成 24 年 2 月にかけて全 4 回開催しました。それぞれの関心に従って、「住まいと暮らし」「暮らしを支える」「魅力を高める」「賑わいをつくる」の 4 つのグループに分かれ、まちづくりの現状と課題を整理し、課題解決に向けたまちづくりの方向性や実現に向けた取り組みアイデアについて意見交換を行い、この“市民提案書”をとりまとめました。

私たちは、まちづくりや都市計画の専門家ではありませんが、これまで培った経験や視点から、まちづくりについて関心を持ち、行田市が進めるべきまちづくりについて、夢を描き、話し合いを重ねてきました。この“市民提案書”は、行田市に住んでいる私たちの「行田市をよくしたい」という思いや夢が詰まった提案書であることを重く受け止めていただきたいと思います。

この市民提案書の内容については、都市計画マスタープランで記載すべき内容の全てを網羅しているものではないかもしれませんが、しかし、行田市が明るい未来を見出すために、これまでとは違った発想のまちづくりも必要だと考えています。

ぜひ、私たちの思い・夢・希望をたくさん詰め込んだ“市民提案書”を、これからの行田市のまちづくりの指針となる都市計画マスタープランの策定プロセスの中で、反映していただきたいと思います。

おわりに、この“市民提案書”がこれからの行田市のまちづくりのヒントやアイデア集として活用されることを強く願い、ここに提案いたします。

これからも、明るい未来に向けて、私たちと夢を語り会いましょう。

市民まちづくり会議参加市民一同

目 次

1 . 市民まちづくり会議について	1
2 . 行田市のまちづくりについての市民提案	3
1) 住まいと暮らし	3
防災について	3
生活環境・住環境について	5
緑・公園について	6
環境美化について	7
コミュニティ・防犯について	7
重点的な取り組みについて	9
2) 暮らしを支える	10
道路について.....	10
公共交通について.....	13
インフラ整備について.....	14
重点的な取り組みについて	15
3) 魅力を高める	16
地域資源について.....	16
レクリエーションについて.....	19
重点的な取り組みについて	21
4) 賑わいをつくる	22
中心部のまちづくりについて.....	22
JR 行田駅周辺のまちづくりについて	24
観光について.....	25
重点的な取り組みについて	28
5) まちづくりの推進	29
市民参加について.....	29
市民まちづくり会議参加者名簿	31
市民まちづくり会議の会議風景	32

1 . 市民まちづくり会議について

市民まちづくり会議は、市民の視点から行田市のまちづくりについて検討するために、以下の4つのテーマごとに7～9名のグループを構成し、グループごとにワークショップ方式で話し合いを進めました。

会議は全4回（全体プログラムは次頁を参照）にわたり実施しました。

第1回会議では、行田市の現状や都市計画マスタープランの説明により理解を深め、参加者が日頃から感じている行田市の宝もの（良いところ、残したいもの）や問題もの（悪いところ、改善したいもの）について、意見を出し合いました。

第2回会議では、第1回の宝ものと問題ものを踏まえ整理した、まちづくりの現状と課題について確認し、課題解決に向けまちづくりの方向性について検討しました。

第3回会議では、第2回で検討したまちづくりの方向性の実現に向け、具体的な取り組みアイデアを出し合い、さらにその取り組みの役割分担（市民・行政・民間）や実施時期（短期・中期・長期）について検討しました。

第4回会議では、これまでに検討したまちづくりの方向性・取り組みアイデアを整理するとともに、実現に向けた重点的な取り組みについて検討を深め、「市民提案書」のとりまとめを行ないました。

4つのテーマグループと参加人数

テーマ	分野	人数
住まいと暮らし	住環境、防災・防犯、コミュニティ	8名
暮らしを支える	道路、公共交通、下水道、情報インフラ	7名
魅力を高める	自然環境（水と緑）、景観、歴史・文化、レクリエーション	9名
賑わいとつくる	中心市街地と駅周辺のまちづくり、産業振興（農・工・商）、観光	8名

全4回のプログラム

	開催日時・場所	内容
第1回	平成23年11月27日(日) 10:00~12:25 行田市役所3階305会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画マスタープラン及び市民アンケート調査結果について ・グループワークの全体説明及びグループ分けについて ・グループワーク「まちづくりの現状と課題の整理」
第2回	平成23年12月18日(日) 9:00~12:00 行田市産業文化会館 2階2A会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回市民まちづくり会議の振り返りについて ・グループワーク(その1)「まちづくりの課題を確認」 ・グループワーク(その2)「課題解決に向けたまちづくりの方向性を考える」 ・成果発表
第3回	平成24年1月29日(日) 13:30~16:45 グリーンアリーナ2階研修室	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回市民まちづくり会議の振り返りと第3回会議の内容について ・グループワーク(その1)「まちづくりの方向性を確認しよう」 ・グループワーク(その2)「まちづくりを進めるための方向性を確認しよう」 ・成果発表
第4回	平成24年2月26日(日) 13:30~ : 行田市産業文化会館 2階2A会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回市民まちづくり会議の振り返りについて ・グループワーク(その1)「これまでの成果を確認しよう」 ・グループワーク(その2)「重点的な取り組みについて考えよう」 ・成果発表

2 . 行田市のまちづくりについての市民提案

1) 住まいと暮らし

住まいと暮らしに関わる分野について、以下の内容を提案します。

分野	まちづくりの方向性
防災	災害に強いまちのあり方を検討する。 水害対策を充実させる。 市街地の延焼を防ぐための空間を確保する。 防災体制の見直しや災害時の体制を強化する。
生活環境・ 住環境	良好な住環境を保全・維持するためのルールをつくる。 住宅地の安全性を確保するための道路整備を進める。 防災性を考慮した安全な住宅地をつくる。
緑・公園	屋敷林などのまとまった緑を保全・活用する。 公園や街路樹の維持管理のあり方を見直す。
環境美化	地域が主体となったクリーン活動を継続する。
コミュニティ・ 防犯	地域で気軽に集まれる場所の整備・充実を図る。 市民活動を活性化する。 防犯灯の整備・充実を図る。

防災について

【現状と課題】

- ・平坦な地形のため、自然災害が比較的少ない地理的条件である。
- ・一方で、河川や用水が多く、集中豪雨などにより水害の危険性がある。
- ・大地震に備えた防災体制の構築が必要である。

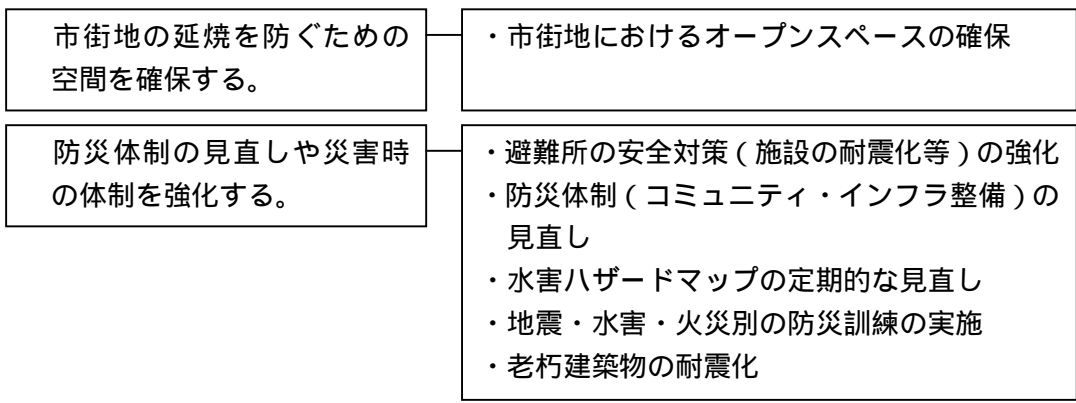
【まちづくりの方向性】

災害に強いまちのあり方を
検討する。

水害対策を充実させる。

【取り組みアイデア】

- ・水害に備えるための河川改修
- ・水害時に活用できる水路の整備
- ・治水を伴った公園の整備



【役割分担と実施時期】

取り組みアイデア	役割分担			実施時期		
	市民	行政	民間	短期	中期	長期
水害に備えるための河川改修						
水害時に活用できる水路の整備						
治水を伴った公園の整備						
市街地におけるオープンスペースの確保						
避難所の安全対策（施設の耐震化等）の強化						
防災体制（コミュニティ・インフラ整備）の見直し						
水害ハザードマップの見直し						
地震・水害・火災別の防災訓練の実施						
老朽建築物の耐震化						

市民まちづくり会議で出された意見

- ・行政が取り組む内容が多い分野ですが、防災体制や防災訓練などについては、市民が主体的に取り組むべき課題です。
- ・また、これらのソフト面の取り組みは、出来るだけ早くスタートし、市民と行政の協働により、安全で安心できるまちづくりを進めていく必要があります。

生活環境・住環境について

【現状と課題】

- ・地域によっては交通機関や道路網が十分ではなく、利便性が低いところがある。
- ・生活道路内への通過交通により、交通事故の危険性や振動・騒音などの問題を抱えている地域がある。
- ・宅地開発に伴い、宅地の細分化が進んでいる。

【まちづくりの方向性】

良好な住環境を保全・維持するためのルールをつくる。

住宅地の安全性を確保するための道路整備を進める。

防災性を考慮した安全な住宅地をつくる。

【取り組みアイデア】

- ・建築協定や地区計画の整備推進
- ・行田市にふさわしい敷地面積の設定
- ・宅地開発における公園整備のあり方の検討

- ・良好な住宅地を活かす生活道路の整備

- ・ブロック塀を生け垣にするなどのルールづくり
- ・生け垣化に対する補助制度の整備

【役割分担と実施時期】

取り組みアイデア	役割分担			実施時期		
	市民	行政	民間	短期	中期	長期
良好な住宅地を活かす生活道路の整備						
建築協定や地区計画の整備推進						
行田市にふさわしい敷地面積の設定						
宅地開発における公園整備のあり方の検討						
ブロック塀を生け垣にするなどのルールづくり						
生け垣化に対する補助制度の整備						

市民まちづくり会議で出された意見

- ・良好な住環境を形成するためには、それぞれの地域にあったルールづくりなど、長期的な取り組みが必要です。
- ・行田市の環境にふさわしい住宅地のあり方を検討していく必要があります。

緑・公園について

【現状と課題】

- ・地域によっては、子どもが少なく、公園があまり使われていないところがある。
- ・公園の除草作業などがきちんと行われているところもあるが、中には管理上の問題があるところがある。

【まちづくりの方向性】

屋敷林などのまとまった緑を保全・活用する。

公園や街路樹の維持管理のあり方を見直す。

【取り組みアイデア】

・屋敷林の公園化（オープンガーデンなど）

・公園や街路樹のオーナー制の導入
・農協の空き地の活用

【役割分担と実施時期】

取り組みアイデア	役割分担			実施時期		
	市民	行政	民間	短期	中期	長期
屋敷林の公園化(オープンガーデンなど)						
公園や街路樹のオーナー制の導入						
農協の空き地の活用						

市民まちづくり会議で出された意見

- ・公園の整備については、市民が広く利用できるオープンスペースの整備が望まれます。
- ・屋敷林の公園化については、管理が行き届いていない空き家の問題と一体的に取り組んでいく必要があります。

環境美化について

【現状と課題】

- ・除草作業などがきちんと行われている公園もあるが、中には管理上の問題がある公園や緑道がある。
- ・市有地の空地の維持管理が十分でない。

【まちづくりの方向性】

地域が主体となったクリーン活動を継続する。

【取り組みアイデア】

・自治会や小学校におけるクリーン活動の継続

【役割分担と実施時期】

取り組みアイデア	役割分担			実施時期		
	市民	行政	民間	短期	中期	長期
自治会や小学校におけるクリーン活動の継続						

市民まちづくり会議で出された意見

- ・地域のクリーン活動は、今後も積極的に続けていく必要があります。
- ・市街地には、市有地の空地など、行政による適切な管理が必要な場所もあります。

コミュニティ・防犯について

【現状と課題】

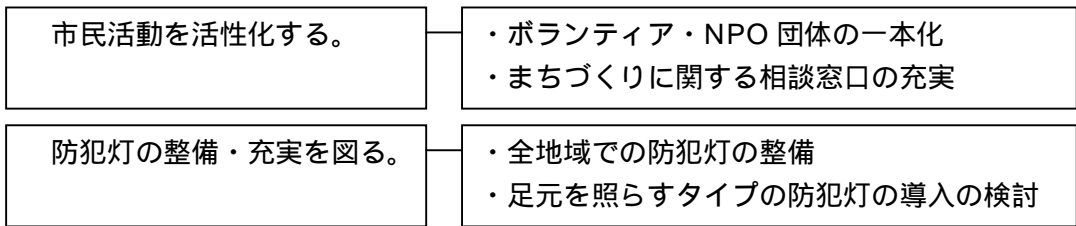
- ・過疎化・高齢化が進んでいる地区がある。
- ・市民による防犯パトロールが行われている。
- ・防犯灯が明るすぎて、星空が見えにくくなっている場所がある。

【まちづくりの方向性】

地域で気軽に集まれる場所の整備・充実を図る。

【取り組みアイデア】

- ・コミュニティ施設の整備（自治会館の機能充実）
- ・小学校の有効活用
- ・既存施設の再編成（公民館、地域文化センター、自治会館）



【役割分担と実施時期】

取り組みアイデア	役割分担			実施時期		
	市民	行政	民間	短期	中期	長期
コミュニティ施設の整備(自治会館の機能充実)						
小学校の有効活用						
既存施設の再編成(公民館、地域文化センター、自治会館)						
ボランティア・NPO団体の一本化						
まちづくりに関する相談窓口の充実						
全地域での防犯灯の整備						
足元を照らすタイプの防犯灯の導入の検討						

市民まちづくり会議で出された意見

- ・高齢社会に向けた、地域で支え合うコミュニティの維持に向けた取り組みが必要です。
- ・地域の拠点となる施設は、日常は住民の交流の場であり、非常時には寝泊りができるような機能が望まれます。
- ・市民活動については、元気な高齢者に積極的に呼びかけ、まちづくりを盛り上げていく必要があります。

重点的な取り組みについて

2) 暮らしを支える

暮らしを支える分野について、以下の内容を提案します。

分野	まちづくりの方向性
道路	歩いて暮らせるみちづくりを推進する。 歩きたくなる、人に優しいみちづくりを推進する。 道路拡幅・新設による住環境への影響を考慮しながら計画を推進する。 魅力的な幹線沿道の整備を行う。 南北方向道路を充実させる。 案内板等の整備により利用者の利便性を向上させる。 市民と一体となった「みちをまもる」ための仕組みづくりを進める。
公共交通	バス路線の利便性を高める。 高齢者や観光客に配慮した市内循環バスのルート設定を検討する。 市内公共交通事業者と市・市民との協力体制を築く。
インフラ整備	河川環境を保全する。 上下水道施設の耐震化を推進する。 下水道整備を推進し、下水道普及率を向上させる。 都市ガス網の充実を図る。

道路について

【現状と課題】

- ・主要道路において歩道の整備が進められているが、依然として未整備の箇所がある。
- ・歩道に段差やスロープ（傾斜）が多い、また、歩道の幅員が狭い。
- ・歩行者と自転車が安心して利用できない。
- ・道路整備に伴い、歩行者が行き来にしにくい箇所が生じ、地域が分断された。
- ・高速道路へのアクセス利便性が十分でない。
- ・道路や街路樹の整備・維持管理が十分にされていない箇所がある。

【まちづくりの方向性】

歩いて暮らせるまちづくりを推進する。

【取り組みアイデア】

- ・歩行者空間の確保
 - みなし歩道化（狭あい路線におけるグリーン舗装等）の推進
 - 主要道路の街路樹の一部伐採による歩行者スペースの確保
 - 通行規制（一方通行等）による歩行者空間の充実
 - 国道 125 号バイパスの側道の歩行者専用化
- ・目的地を意識した、つながりのある歩道の整備
- ・自転車専用道路（レーン）の整備
- ・生活専用道路（車両通行規制）の区域指定

歩きたくなる、人に優しいまちづくりを推進する。

- ・歩道のバリアフリー化、及びユニバーサルデザインによる整備
- ・歩道幅員の拡幅
- ・国道 125 号など市内中心部を走る大型車両の抑制
- ・国道 125 号の管理の市への移管
- ・信号点滅時間の見直し

道路拡幅・新設による住環境への影響を考慮しながら計画を推進する。

- ・既存道路と新設道路の整備のあり方の検討

魅力的な幹線沿道の整備を行う。

- ・国道 125 号バイパス沿道への道の駅設置の検討

南北方向道路を充実させる。

- ・南北方向道路（都市計画道路常盤通佐間線、行田市停車場酒巻線バイパス）の整備

案内板等の整備により利用者の利便性を向上させる。

- ・利用者に伝わる道路案内板の工夫・見直し

市民と一体となった「みちをまもる」ための仕組みづくりを進める。

- ・道路照明灯の整備充実
- ・街路樹や歩道の維持管理の仕組みづくり

【役割分担と実施時期】

取り組みアイデア	役割分担			実施時期		
	市民	行政	民間	短期	中期	長期
歩行者空間の確保						
みなし歩道化(狭あい路線におけるグリーン舗装等)の推進						
主要道路の街路樹の一部伐採による歩行者スペースの確保						
通行規制(一方通行等)による歩行者空間の充実						
国道125号バイパスの側道の歩行者専用化						
目的地进行意識した、つながりのある歩道の整備						
自転車専用道路(レーン)の整備						
生活専用道路(車両通行規制)の区域指定						
歩道のバリアフリー化及びユニバーサルデザインによる歩道の整備						
歩道幅員の拡幅						
国道125号など市内中心部を走る大型車両の抑制						
国道125号の管理の市への移管						
信号点滅時間の見直し						
既存道路と新設道路の整備のあり方の検討						
国道125号バイパス沿道の道の駅設置の検討						
南北方向道路(都市計画道路常盤通佐間線、行田市停車場酒巻線バイパス)の整備						
利用者に伝わる道路案内板の工夫・見直し						
道路照明灯の整備充実						
街路樹や歩道の維持管理の仕組みづくり						

市民まちづくり会議で出された意見

- ・道路の整備については、行政が取り組むべき分野が多くなっていますが、利用する市民の声を十分に取り入れながら計画に反映させていく必要があります。
- ・歩道の拡幅やバリアフリー化については、全ての人に優しいまちづくりを実現する上で、優先的に行う必要があります。
- ・南北方向道路の充実の他は、市内の住環境保全のためにも、新たな幹線道路の整備は抑え、歩行者空間の充実や魅力的な沿道整備を行う等の質的向上を図っていくことが必要です。

公共交通について

【現状と課題】

- ・市内循環バスの利用率が低い。
- ・JR 行田駅からの民間バスがない。
- ・循環バスは観光利用しやすい設定がされている。
- ・JR 行田駅よりも吹上駅の方が、市民に多く利用されている。
- ・秩父鉄道の運行本数が少ない。

【まちづくりの方向性】

バス路線の利便性を高める。

高齢者や観光客に配慮した市内循環バスのルート設定を検討する。

市内公共交通事業者と市・市民との協力体制を築く。

【取り組みアイデア】

・JR 行田駅へのバス運行の強化

・市民のニーズに沿ったデマンド交通の検討
・観光客向けルートの充実

・市内公共交通事業者と市および市民との意見交換機会の創出
➤ 行政・事業者・市民を交えた意見交換機会の設置

【役割分担と実施時期】

取り組みアイデア	役割分担			実施時期		
	市民	行政	民間	短期	中期	長期
JR行田駅へのバス運行の強化						
市民のニーズに沿ったデマンド交通の検討						
観光客向けルートの充実						
市内公共交通事業者と市および市民との意見交換機会の創出						

市民まちづくり会議で出された意見

- ・鉄道、バスを含めた市内の総合交通体系のあり方について、行政・民間事業者・市民が協働して取り組んで行く必要があります。
- ・市内循環バスについては、高齢者・観光客それぞれのニーズを把握し、利用率向上に繋がるルートの設定、運行本数について検討することが必要です。

インフラ整備について

【現状と課題】

- ・ 公営水道の水圧が高く、使いやすい。
- ・ 忍川や酒巻導水路等では、生活排水の流入や渇水期の水流減のために、臭うことがある。
- ・ 都市ガスが利用できない地区がある。

【まちづくりの方向性】

河川環境を保全する。
上下水道施設の耐震化を推進する。
下水道整備を推進し、下水道普及率を向上させる。
都市ガス網の充実を図る。

【取り組みアイデア】

<ul style="list-style-type: none"> ・ 河川改修、整備の推進 ・ 渇水期通水による河川の浄化
<ul style="list-style-type: none"> ・ 上下水道施設の耐震化
<ul style="list-style-type: none"> ・ 下水道普及率・水洗化率の向上 ・ 水洗化率向上のための普及啓発
<ul style="list-style-type: none"> ・ 都市ガス網充実に向けた事業者への働きかけ

【役割分担と実施時期】

取り組みアイデア	役割分担			実施時期		
	市民	行政	民間	短期	中期	長期
河川改修、整備の推進						
渇水期通水による河川の浄化						
上下水道施設の耐震化						
下水道普及率・水洗化率の向上						
水洗化率向上のための普及啓発						
都市ガス網充実に向けた事業者への働きかけ						

市民まちづくり会議で出された意見

- ・ 河川環境の整備や上下水道施設整備については、主に行政が取り組むべき分野となっています。住環境の向上のために中長期的な計画で着実に整備を進めていく必要があります。
- ・ 都市ガス網の充実については、行政や市民からの働きかけが必要です。

重点的な取り組みについて

3) 魅力を高める

魅力を高める分野について、以下の内容を提案します。

分野	まちづくりの方向性
地域資源	自然環境を保全・活用する。 歴史資源を掘り起こし、保全する。 地域資源の保全手法を検討する。 地域資源の維持管理に、ボランティアを活用する。 地域資源をつなぐルートを設定する。 地域資源の案内板を充実させる。 自転車で回れるまちづくりに向けた環境整備を進める。 観光客にとって利用しやすい交通手段を整備する。 情報発信の体制づくりや既存の発信手法を見直し、改善する。 市民一人ひとりが、行田市の宣伝ができるようにする。
レクリエーション	公園・緑道等を気持ちよく利用出来るように維持管理する。 資源（拠点）を結び、アクセスをわかりやすくする。 市民が身近でスポーツに親しめる環境を整える。 市民や観光客がホッとできる場を整備する。 行田らしさを生かしたおもてなしをできる環境を整える。

地域資源について

【現状と課題】

- ・市内には、自然の風景から歴史的な資源まで、様々な地域資源が点在している。
- ・歴史を感じる街並み（足袋蔵、裏道）や古民家、忍城址周辺の原風景でもある諏訪曲輪周辺など、十分に活用されていない地域資源がある。
- ・河川や水路の水質浄化など、適切な維持管理や整備が必要な地域資源がある。
- ・点在する地域資源を歩いて楽しめる散策道がない。
- ・平坦な地形や緑と水を活かしたレンタサイクルやサイクリングロードの整備が進んでいるが、一部、自転車道がつながっていない。
- ・地域資源の位置や、地域資源に関する情報を伝える手段が充実していない。

【まちづくりの方向性】**【取り組みアイデア】**

自然環境を保全・活用する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ビオトープの整備 ・公園等に苗木を植えることによる、森づくりの推進
歴史資源を掘り起こし、保全する。	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史資源の掘り起こし
地域資源の保全手法を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・買い上げを含めた保全・活用方法の検討
地域資源の維持管理に、ボランティアを活用する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアによる、地域資源の維持管理の仕組みづくり
地域資源をつなぐルートを設定する。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源をつなぐルートの設定（市民と行政による検討委員会による検討）
地域資源の案内板を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源をつなぐルートへの案内板の設置（案内板への企業広告、企業からの出資を募る）
自転車で回れるまちづくりに向けた環境整備を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車道の整備（マナー教育も必要） ・利用しやすいレンタサイクルの充実(有料化)
観光客にとって利用しやすい交通手段を整備する。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源（観光拠点）をまわる循環バスの充実 ・利用状況に応じた市内循環バスの運行
情報発信の体制づくりや既存の発信手法を見直し、改善	<ul style="list-style-type: none"> ・観光情報の一元化 ・ホームページのわかりやすさと利便性の向上
市民一人ひとりが、行田市の宣伝ができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・市民がまちについて学ぶ機会の充実

【役割分担と実施時期】

取り組みアイデア	役割分担			実施時期		
	市民	行政	民間	短期	中期	長期
ビオトープの整備						
公園等に苗木を植えることによる森づくりの推進						
歴史資源の掘り起こし						
買い上げを含めた保全・活用方法の検討						
ボランティアによる地域資源の維持管理の仕組みづくり						
地域資源をつなぐルートの設定(市民と行政による検討委員会による検討)						
地域資源をつなぐルートへの案内板の設置(案内板への企業広告、企業からの出資を募る)						
自転車道の整備(マナー教育も必要)						
利用しやすいレンタサイクルの充実(有料化)						
地域資源(観光拠点)をまわる循環バスの充実						
利用状況に応じた市内循環バスの運行						
観光情報の一元化						
ホームページのわかりやすさと利便性の向上						
市民がまちについて学ぶ機会の充実						

市民まちづくり会議で出された意見

- ・行田市には、忍城址、水城公園、さきたま古墳公園、古代蓮の里、小崎沼など、他市に誇れる数多くの地域資源が点在していますが、それらをつなぐルートや案内が十分に整備されていないことが大きな課題になっています。
- ・市民も市外から訪れる人も、これらを楽しめるように、地域資源を取り巻く環境整備を進めていくことが必要です。
- ・特に、地域資源の保全・活用や維持管理については、市民が関われることも多いため、市民と行政が協力・連携して取り組む必要があります。
- ・情報発信については、ホームページの分かりやすさの工夫など、利用者の目線から、早急に改善することが必要です。

レクリエーションについて

【現状と課題】

- ・人が集まり楽しめる魅力的な公園、広場、緑道等が少ない。
- ・周辺にサイクリングロードが多数ある。(平地や水と緑が活かされている。)
- ・街中にベンチやトイレなどが少なく、ゆっくりと過ごすことが出来ない。

【まちづくりの方向性】

公園・緑道等を気持ちよく利用出来るように維持管理する。

資源(拠点)を結び、アクセスをわかりやすくする。

市民が身近でスポーツに親しめる環境を整える。

市民や観光客がホッとできる場を整備する。

行田らしさを生かしたおもてなしをできる環境を整える。

【取り組みアイデア】

・水城公園や忍川等の河川の水質の浄化

・主要な拠点を結ぶ緑道の整備
・地域資源を結ぶサイクリングコースの整備

・身近なスポーツ施設の充実

・休憩スペースの確保(市民や事業者によるトイレ・休憩場所の提供)

・郷土料理を提供する場の整備
・風車エネルギーを活かした喫茶スペース等の創出の検討

【役割分担と実施時期】

取り組みアイデア	役割分担			実施時期		
	市民	行政	民間	短期	中期	長期
水城公園や忍川等の河川の水質の浄化						
主要な拠点を結ぶ緑道の整備						
地域資源を結ぶサイクリングコースの整備						
身近なスポーツ施設の充実						
休憩スペースの確保(市民や事業者によるトイレ・休憩場所の提供)						
郷土料理を提供する場の整備						
風車エネルギーを活かした喫茶スペース等の創出の検討						

市民まちづくり会議で出された意見

- ・水城公園や忍川の水質浄化は、早期に取り組む必要があります。
- ・水と緑を感じられる地域資源を、市民が気持ちよく楽しむことが出来るような環境が必要です。
- ・市内には、休憩できるちょっとしたスペースやトイレ、ベンチがあまりありません。市民が散策する時だけでなく、観光客にとっても必要な施設であり、整備充実が必要です。
- ・こうした休憩スペースの確保に向けては、市による公共施設整備だけでなく、一般市民や事業者のおもてなしの気持ちから提供が行われている事例もあります。行田市でもそうした取り組みが行われるような意識の醸成も必要です。

重点的な取り組みについて

4) 賑わいをつくる

賑わいをつくる分野について、以下の内容を提案します。

分野	まちづくりの方向性
中心部のまちづくり	高齢者にやさしい商店街など、商店街の差別化による活性化を図る。 商店街の再編・集約を図る。 人が集まる場所を創出する。 商店街のPRを推進する。
JR 行田駅周辺のまちづくり	個別計画に基づき、戦略的に開発を推進する。 人口流出に歯止めをかけるための施策を充実する。 人を呼び込むために、教育に関して県下一のまちを目指す。
観光	観光客の目線から、観光施策を見直し、必要な取組みを講じる。 観光客が訪れたいくなる施設・環境を整備する。 行田ブランドを創出する。 自転車で回れるまちづくりを進める。 観光客に分かりやすい案内やガイドを充実させる。 観光に関するPRを強化する。 小中学生に行田の魅力を伝え、愛着を育てていく。

中心部のまちづくりについて

【現状と課題】

- ・市街地の商店街は活気がなくなっている。(シャッター通りになっている。)
- ・商店街の衰退により、雇用の減少、経済不振などの影響がある。
- ・一方で、商店街の個人商店にはすばらしいヒト・モノやこだわりがあり、生き残っている「商店」には元気がある。(商店街ではない。)
- ・そういった商店では、PRする場や機会がないといった悩みを抱えている。

【まちづくりの方向性】

高齢者にやさしい商店街など、商店街の差別化による活性化を図る。

商店街の再編・集約を図る。

人が集まる場所を創出する。

商店街のPRを推進する。

【取り組みアイデア】

- ・商店街の個性化、差別化の推進
- ・高齢者向けサービスの充実（例えば高齢者の荷物を運ぶ「御用聞き」スタイルのサービス）
- ・市内ウォーキング企画による商店街の活性化

- ・空き店舗の再編による専門店ゾーンの形成
- ・経営意欲のある店舗の集約化・テナント誘致
- ・商店街「特区」をつくる（税の減免措置等）

- ・繁華街の整備、空き店舗を活用した休憩所
- ・観光物産店の整備
- ・タイアップ（着物・煎餅・のぼうの城・蔵）

- ・体験できる施設（藍染・勾玉）のPR強化
- ・魅力ある参加型イベントの実施
- ・JRや関係機関との連携によるPR強化

【役割分担と実施時期】

取り組みアイデア	役割分担			実施時期		
	市民	行政	民間	短期	中期	長期
商店街の個性化、差別化の推進						
高齢者向けサービスの充実（例えば高齢者の荷物を運ぶ「御用聞き」スタイルのサービス）						
市内ウォーキング企画による商店街の活性化						
空き店舗の再編による専門店ゾーンの形成						
経営意欲のある店舗の集約化・テナント誘致						
商店街「特区」をつくる（税の減免措置等）						
繁華街の整備、空き店舗を活用した休憩所						
観光物産店の整備						
タイアップ（着物・煎餅・のぼうの城・蔵）						
体験できる施設（藍染・勾玉）のPR強化						
魅力ある参加型イベントの実施						
JRや関係機関との連携によるPR強化						

市民まちづくり会議で出された意見

- ・高齢者向けサービスの充実や祭り・イベントとのタイアップなど、商店や民間業者でできるソフト面の取り組みはすぐにでも始められます。
- ・商店街の再編や商店街特区の構想などは、早い段階に長期計画を定め、民間事業者等と連携を図りながら実現していく必要があります。

JR 行田駅周辺のまちづくりについて

【現状と課題】

- ・JR 行田駅周辺の開発がされておらず、商業施設などの集積が見られない。
- ・JR 行田駅周辺のまちづくりの計画が見えてこない。
- ・JR 行田駅へのアクセスが悪く、利用しにくい。

【まちづくりの方向性】

個別計画に基づき、戦略的に開発を推進する。

人口流出に歯止めをかけるための施策を充実する。

人を呼び込むために、教育に関して県下のまちを目指す。

【取り組みアイデア】

・計画的・戦略的・具体的な開発推進

・バス路線や鉄道ダイヤの見直し
 ・子育て施設・保育園の整備
 ・規制緩和によるマンション開発の誘導など、人を住まわせる施策の充実

・幼稚園・保育園、小中高の教育環境の充実

【役割分担と実施時期】

取り組みアイデア	役割分担			実施時期		
	市民	行政	民間	短期	中期	長期
計画的・戦略的・具体的な開発推進						
バス路線や鉄道ダイヤの見直し						
子育て施設・保育園の整備						
規制緩和によるマンション開発の誘導など、人を住まわせる施策の充実						
幼稚園・保育園、小中高の教育環境の充実						

市民まちづくり会議で出された意見

- ・ JR 行田駅周辺の今後のあり方が見えてこないのが問題です。また、そこに住むメリットがない限り駅周辺には人は集まらないため、住みたいと思えるようなまちづくりが必要です。
- ・ 行政で JR 行田駅周辺の将来像を見定め、中長期計画に基づいて、戦略的に住宅開発や土地の高度利用等が可能な環境を整えたうえで、民間事業者による開発等を誘導していく必要があります。
- ・ 教育に関して県下一ということになれば、子育て世代の人口は間違いなく増えると考えられます。JR 行田駅周辺に限らず、子育て・教育環境の整備は行田市としての重要な課題のひとつです。

観光について

【現状と課題】

- ・ 市内には、たくさんの観光資源があるが、十分に活用されているとはいえない。
- ・ 観光客にとっての魅力となる、行田ならではの食べ物や特産物がない。
- ・ 観光客が訪れたときに利用できる飲食店や駐車場、宿泊施設等が少ない。
- ・ 貴重な産業の一つである農業について、農業や農産物を観光資源として活用していくことが必要。
- ・ 道路標識が少ない、案内看板（地図）が分かりづらい、観光マップが統一されていないなど、観光客に対して観光に関する情報が伝わりにくい。
- ・ 行政や関係組織が情報を共有していないため、連携して、活気あるまちづくりへの取り組みを進めることが必要。
- ・ 市民一人ひとりが、観光客を迎えるおもてなし意識を持ち、市全体で観光まちづくりに取り組むことが必要。

【まちづくりの方向性】

観光客の目線から、観光施策を見直し、必要な取組みを講じる。

観光客が訪れたいくなる施設・環境を整備する。

【取り組みアイデア】

- ・ 観光サインやマップの統一、見やすい観光案内標識づくり
- ・ 132の神社仏閣の説明板の充実
- ・ 格安観光、タクシー代行車の活用

- ・ 行田ブランドが全て揃っている物産館の整備
- ・ 飲食店等の前の休憩所やベンチ等の充実

<p>行田ブランドを創出する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな行田ブランド(食べ物)のアイデア募集 ・地産地消による飲食店の展開 ・貸し農園、家庭農園の充実
<p>自転車で回れるまちづくりを進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・サイクリングロードの整備・観光ルートのカラペイント
<p>観光客に分かりやすい案内やガイドを充実させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドボランティア(説明ボランティア)の結成 ・観光資源を活用した定期的なイベント(桜めぐり、古墳や足袋蔵等の日本史めぐり)
<p>観光に関するPRを強化する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行田市の「忍城市」への改名 ・駅名の「JR 忍城駅」「秩父鉄道 忍城市駅」への改名 ・観光協会をトップとした体制の見直し・一元化 ・ホームページやパンフレットの見直しと充実 ・様々な媒体を活用した情報発信の強化(行田の祭りを全国にPR。例えば「手帳」に行田のお祭りを掲載してもらう) ・テレビ番組(まちの紹介)の放映権の買取り
<p>小中学生に行田の魅力を伝え、愛着を育てていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学生を対象とした「行田の魅力」を伝える講習の実施

【役割分担と実施時期】

取り組みアイデア	役割分担			実施時期		
	市民	行政	民間	短期	中期	長期
観光サインやマップの統一、見やすい観光案内標識づくり						
132ヶ所の神社仏閣の説明板の充実						
格安観光、タクシー代行車の活用						
新たな行田ブランド(食べ物)のアイデア募集						
地産地消による飲食店の展開						
貸し農園、家庭農園の充実						
サイクリングロードの整備・観光ルート のカラーペイント						
行田ブランドが全て揃っている物産館 の整備						
飲食店等の前の休憩所やベンチ等の 充実						
ガイドボランティア(説明ボランティア) の結成						
観光資源を活用した定期的なイベント(桜めぐり、古墳や足袋蔵等の日本史めぐり)						
行田市の「忍城市」への改名						
駅名の「JR忍城駅」「秩父鉄道 忍城市 駅」への改名						
観光協会をトップとした体制の見直し・ 一元化						
ホームページやパンフレットの見直し と充実						
様々な媒体を活用した情報発信の強化 (行田の祭りを全国にPR。例えば「手帳」 に行田のお祭りを掲載してもらう)						
小中学生を対象とした「行田の魅力」 を伝える講習の実施						

市民まちづくり会議で出された意見

- ・短期的には、市民によるガイドボランティアを結成し、行政と商店などの民間業者が手を組んで、案内板の統一や休憩所・ベンチの充実、新たな行田ブランドの創出など、低コストで手がけやすいソフト面でのおもてなし環境づくりに着手することが考えられます。
- ・中期的には、民間では観光物産館の整備、行政はサイクリングロード整備などハード面の整備を目標とします。
- ・映画「のぼうの城」公開など世間の関心の高まる時機にあわせて行田市を「忍城市」へ改名し、全国的な知名度を上げていきます。
- ・長期的には、商店街を商業特区に指定し、規制緩和等により商店や民間事業者を誘致し、民間活力による賑わいづくりを進めていきます。